

# ハッピーベルト・成分表、安全シート

## 1. 化学品及び会社情報

柳瀬株式会社

兵庫県丹波市山南町谷川 1 3 8 5

TEL : 0 7 9 5 - 7 7 - 2 1 5 1

作成日 : 2025 年 7 月 10 日

整理番号 : MSDS - Z 2 8 3

## 2. 危険有害性の要約

危険性 : 危険性は極めて低い。

有害性 : 研磨作業中に発生する粉じんは眼、皮膚を刺激することがある。

研磨作業中に発生する粉じんを吸入すると健康障害を起こすことがある。

環境影響 : 研磨作業中に粉じんが発生するので作業環境を汚染する恐れがある。

[GHS 分類] (構成純物質について)

別表参照

[GHS ラベル要素] (構成純物質について)

別表参照

注意書き

予防策、応急措置、保管、廃棄については、下記の項を参照

## 3. 組成及び成分情報

	成分	CAS No	含有量 (%)
物質の特定	酸化アルミニウム	1344-28-1	19
	フェノール樹脂 ホルムアルデヒドポリマー	9003-35-4	20
	ホウ酸、テトラフルオロ、カリウム、	14075-53-7	11
	炭酸カルシウム	1317-65-3	3
	氷晶石	15096-52-3	15
	珪灰石	13983-17-0	5
	PE / コットン		27
	その他		1

<p>4.応急措置</p>	<p>眼に入った場合  多量の水で直ちに眼を洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。</p> <p>皮膚に付いた場合  汚染部位を石鹼と水で洗う。</p> <p>吸入した場合  徴候や症状がでた場合は、新鮮な空気のところへ患者を移動させる。  徴候や症状が持続する場合は、医師の手当を受ける。</p> <p>飲み込んだ場合  適用しない。</p> <p>応急処置に関する特記事項  応急処置はすべて切断又は研磨作業中に発生する粉塵によるものです。</p>
<p>5.火災時の措置</p>	<p>消火方法  ヘルメット、自給式呼吸器、防火服、腕、胴、脚等の保護バンド、頭部保護具を含む完全保護服を着用すること。</p> <p>消火剤  水・二酸化炭素・粉末消火薬剤・泡消火剤</p> <p>火災時の処置に関する特記事項  適用しない。</p>
<p>6.漏出時の措置</p>	<p>人体に対する注意事項・保護具及び緊急措置  作業の際には必ず保護具（保護フェイス、保護手袋、保護衣等）を着用する。  風上から作業する。</p> <p>環境に対する注意事項  河川や湖沼等へ排出されないように注意する。</p> <p>回収・中和  掃き集めて容器に回収する。</p>
<p>7.取り扱い及び保管上の注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度を 0～40℃に保つ</li> <li>・湿度を 30～60%に保つ</li> <li>・使用中の喫煙、飲食は避ける</li> <li>・乱暴な取り扱い、落下を避ける</li> <li>・物理的損傷から保護する</li> </ul>
<p>8.ばく露防止及び保護措置</p>	<p>許容濃度  硬化済み接着剤（CURED AD1）  日本産業衛生学会 許容濃度 TWA：設定されていない  ACGIH TLV：設定されていない</p> <p>設備対策  硬化物の研磨、切削を行う場合は、適切な局所排気装置を使用する。  換気が充分でない場合は、適切な呼吸保護具を使用する。集塵装置を使用する。</p>

	<p>保護具</p> <p>呼吸保護具 切断又は研磨作業中に発生する粉塵の吸入を避ける。 汚染物質の空気中での濃度に基づいた検定済の呼吸器を選択すること。半面防塵マスク、全面防塵マスク</p> <p>保護眼鏡 サイドシールド付きの安全眼鏡を着用する。</p>
9.物理的及び化学的性質	<p>外観等 : 砥粒を織布に接着した研磨工具</p> <p>沸点／範囲 : 適用しない</p> <p>融点／範囲 : 適用しない</p> <p>蒸気圧 : 適用しない</p> <p>水溶性 : 適用しない</p> <p>比重 : 適用しない</p> <p>蒸気密度 : 適用しない</p> <p>蒸気濃度 : 適用しない</p> <p>pH : 適用しない</p> <p>粘度 : 適用しない</p>
10.安定性及び反応性	<p>引火点 : 適用しない</p> <p>燃焼範囲－下限 (%) : 適用しない</p> <p>燃焼範囲－上限 (%) : 適用しない</p> <p>発火点 : 適用しない</p> <p>避けるべき物質 : 適用しない</p> <p>有害な分解物 : 通常の使用条件においては、有害な分解物の発生は予想されない。しかしながら、火焰または極端な過熱により次の分解物を放出することがある。 一酸化炭素・二酸化炭素・窒素酸化物・シアン化物・ホルムアルデヒド</p> <p>安定性・反応性 : 安定。危険な重合は起こらない。</p>
11.有害性情報	<p>眼に入った場合 本品を正常に使用している場合に、眼に入ることは予想されない。 眼の機械的刺激 : 症状は刺激、発赤、角膜の傷、催涙を含むことがある。 切断、研磨又は機械加工によって発生する粉塵は眼を刺激することがある。</p> <p>皮膚に付いた場合 皮膚に付いた場合の健康障害は予想されない。 機械的な皮膚刺激 : 症状はかゆみ、発赤を含むことがある。</p> <p>吸入した場合 吸入した場合の健康障害は予想されない。 切断、研磨又は機械加工によって発生する粉塵は呼吸器系を刺激することがある。</p> <p>飲み込んだ場合 本品は、摂取される可能性は少ない。</p> <p>その他有害性情報 本品は、適切な条件又は当社の使用方法に従って使用する場合は、危険有害性はない。しかし、本品の取扱説明書に従わないで使用する場合は、製品の性能に影響を与え、危険有害性を起こす可能性がある。</p>

12.環境影響情報	環境に関する有害性 生態毒性 土壌中の移動性	情報なし 情報なし データなし
13.廃棄上の注意	残余廃棄物 大量の場合：処理を外部に委託する。産業廃棄物のマニフェストを交付する必要あり。 少量の場合：焼却又は産業廃棄物業者に委託する。 汚染容器及び包装：空容器は焼却又は産業廃棄物業者に委託して処分する。	
14. 輸送上の注意	国際規制 海上規制情報 UN No. <b>Marine Pollutant</b> 航空規制情報 UN No. 国内規制 陸上規制情報 海上規制情報 国連番号 海洋汚染物質 航空規制情報 国連番号 特別安全対策 運搬に際して、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。	
15.適用法令	消防法 適用しない 海洋汚染防止法 適用しない 労働安全衛生法 適用しない P R T R法 適用しない	
その他の情報	記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。 また、注意事項は、通常の手扱いを対象としたものなので、特殊な手扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。	

構成純物質のGHS分類		
○印が該当する物質	○	○
	酸化アルミニウム	フェノール樹脂
物理化学的危険性		
火薬類	分類対象外	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類	分類対象外	分類対象外
高压ガス	分類対象外	分類対象外
引火性液体	分類対象外	分類対象外
可燃性固体	区分外	区分外
自己反応性化学品	分類対象外	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外	分類対象外
自然発熱性固体	区分外	区分外

自己発熱性化学品	区分外	分類できない
水反応可燃性化学品	区分外	分類対象外
酸化性液体	分類対象外	分類対象外
酸化性固体	区分外	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない	区分外
<b>健康に対する有害性</b>		
急性毒性（経口）	区分外	区分 4
急性毒性（経皮）	分類できない	区分 3
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない	区分 1A・1C
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない	区分 1
呼吸器感作性	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない	区分 1B
発がん性	区分外	区分外
生殖毒性	区分できない	区分 1B
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）	区分 1（呼吸器 心血管系、腎臓、神経系）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1（吸入：肺）	区分 1（呼吸器、心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系）
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない
<b>環境に対する有害性</b>		
水生環境急性有害性	分類できない	区分 2
水生環境慢性有害性	分類できない	区分外
<b>ラベル要素</b>		
絵表示又はシンボル		
注意喚起語	危険	危険
危険有害性情報	呼吸器への刺激のおそれ。	飲み込むと有害(経口)。皮膚に接触すると有毒(経皮)。
	長期又は反復ばく露吸入による肺の障害。	遺伝性疾患のおそれの疑い。
		重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。 呼吸器、心血管系、腎臓、消化管、血液系、肝臓、脾臓、胸腺、中枢神経系の障害。